

令和8年度

# 事業概要

国土交通省近畿地方整備局

紀南河川国道事務所



# 目次

I. 事務所の概要	1
(1) 事務所の沿革	1
1) 事務所の沿革	1
2) 河川事業の経緯	1
3) 道路事業の経緯	2
(2) 概要等	2
(3) 事務所の組織	3
(4) 紀南河川国道事務所管内図	4
1) 河川	4
2) 道路	5
II. 河川事業	6
(1) 河川事業	7
1) 一般河川改修事業	7
2) 河川維持修繕事業	8
3) 流域治水協議会	9
4) 熊野川減災協議会	9
5) ソフト施策	10
III. 改築道路事業	12
(1) 近畿自動車道紀勢線	13
1) すさみ串本道路	13
2) 串本太地道路	14
3) 新宮道路	15
4) 新宮紀宝道路	16
(2) 熊野大橋更新	17
(3) 直轄権限代行	18
1) 奥漕道路(Ⅲ期)	18
IV. 道路管理	19
(1) 暮らしを守る道路管理	19
1) 道路敷地の管理(道路法第18条関係)	19
2) 機械の管理	19
3) 道路に関する許認可事務	19
4) 維持作業	20
5) 清掃・植栽管理	20
6) 氷雪対策	20
(2) 道路構造物の老朽化対策	21
1) 橋梁点検	21
2) トンネル点検	21
3) 道路付属物点検	22

4)	道路土工構造物点検	22
5)	橋梁の補修・耐震工事	23
6)	和歌山県道路メンテナンス会議	23
7)	道路照明灯	24
8)	トンネル照明設備	24
9)	トンネル非常用設備	24
10)	道路情報表示装置	24
(3)	道路の防災・震災対策	25
1)	南海トラフ地震に伴う津波浸水に関する「和歌山県道路啓開協議会」	25
2)	すさみ防災基地	25
3)	協力業者との災害協定	25
4)	道路啓開訓練	25
5)	資材の配備	25
6)	越波防止対策	26
7)	道路法面の防災対策	26
8)	CCTV設備	27
9)	道の駅	27
V.	交通安全対策事業	28
(1)	事故ゼロプラン	28
(2)	交通事故重点対策事業・交通安全施設等整備事業（一種）	28
1)	令和8年度実施事業	28
2)	歩道の整備	28
3)	交差点改良	29
(3)	交通事故重点対策事業・交通安全施設等整備事業（二種）	29
VI.	紀南河川国道事務所 KX推進の取り組み	30
(1)	DX推進の取り組み（道路改築事業）	31
1)	3D建設プリンタを使用した重力式擁壁施工〔すさみ串本道路〕	31
2)	設計業務におけるBIM/CIM活用〔串本太地道路・新宮道路〕	31
3)	国総研DXデータセンター実証実験への取り組み〔すさみ串本道路〕	32
4)	ドローン隊始動！ドローン訓練を実施	32
(2)	DX推進の取り組み（河川管理事業）	34
1)	熊野川河口砂州・河川管理施設の効率的・迅速な把握・共有	34
2)	新宮川市域における洪水浸水想定区域図の3次元化	34
(3)	MX推進の取り組み（太地町自動運転の支援）	35
(4)	GX推進の取り組み	36
(5)	その他の取り組み	36
1)	すさみ串本道路 廃校利用プロジェクト	36
2)	TEC—FORCE（令和6年能登半島地震における支援）	37
3)	道路ネットワーク全体のサービス向上の実現（WISENET2050）	38

## I. 事務所の概要

### (1) 事務所の沿革

#### 1) 事務所の沿革

昭和34年	4月	紀南国道工事事務所を設置
昭和43年	4月	田辺国道維持出張所、新宮国道維持出張所を設置
昭和45年	4月	新宮川出張所を設置、紀南工事事務所に名称変更
昭和60年	1月	紀南工事事務所が田辺市中万呂（現在地）に移転
昭和61年	4月	串本国道維持出張所を設置
平成15年	4月	紀南河川国道事務所に名称変更
平成21年	4月	紀勢線出張所を設置
令和5年	4月	新宮川出張所、新宮国道維持出張所を廃止、 新宮河川国道維持出張所を設置

#### 2) 河川事業の経緯

昭和45年	4月	一級河川指定 熊野川本川（5.0km）直轄管理区間に編入 新宮川水系工事実施基本計画策定
昭和46年	4月	支川相野谷川（6.5km）直轄管理区間に編入
昭和47年	5月	支川市田川（2.0km）直轄管理区間に編入
昭和54年		相野谷川捷水路事業に着手
昭和57年		激甚災害特定事業として市田川水門・市田川排水機場整備に着手
昭和62年	3月	市田川水門および市田川排水機場完成
昭和63年		鮎田水門改築事業に着手
平成4年		市田川浄化事業に着手
平成8年	3月	相野谷川捷水路事業概成、鮎田水門完成
平成9年		市田川排水機場増設に着手
平成12年	3月	市田川浄化事業完成、市田川排水機場増設完成
平成13年		相野谷川水防災対策特定河川事業として輪中堤等の整備に着手
平成15年		あけぼの地区高潮堤整備完成
平成16年		相筋地区堤防強化事業に着手
平成17年		相野谷川排水機場整備に着手
平成18年		相野谷川土地利用一体型水防災事業として宅地嵩上げに着手
平成19年		矢湊地区高潮堤整備事業に着手
平成19年	7月	相野谷川排水機場完成
平成20年		相野谷川水防災事業完了
平成20年	6月	新宮川水系河川整備計画基本方針策定
平成23年		河川激甚災害対策特別緊急事業に着手
平成28年		河川激甚災害対策特別緊急事業完了
平成29年	3月	緊急対策特定区間を設定
令和3年	10月	新宮川水系河川整備基本方針を変更
令和4年	3月	新宮川水系(熊野川)河川整備計画策定 緊急対策特定区間事業完了
令和6年	3月	市田川排水機場増設完成

### 3) 道路事業の経緯

昭和34年	4月	国道42号一次改築に着手
昭和40年	4月	管理を和歌山工事事務所と和歌山県に分割
昭和43年	6月	和歌山県管理分を紀南工事事務所に移管
昭和44年	4月	和歌山工事事務所管理分(田辺市芳養町まで)を紀南工事事務所に移管
昭和44年	7月	一次改築完了
昭和47年	4月	二次改築事業に着手
平成6年	3月	国道42号広角道路全線開通
平成7年	3月	国道42号田辺バイパス新設道路区間全線開通
平成8年	7月	国道169号奥瀬道路東牟婁郡北山村小松～奈良県吉野郡十津川村神下間(延長3.7km)の一次改築を完了
平成9年	3月	国道42号日置川道路全線開通
平成11年	9月	国道42号新宮市三輪崎地区で一部付替(延長0.6km)が完了(事前通行規制区間0.5kmが解除)
平成12年	3月	国道42号田辺バイパス新設道路区間全線4車線化完了
平成12年	12月	国道42号天満トンネル開削事業完了
平成16年	3月	国道42号田辺バイパス田鶴交差点立体化事業(延長0.8km)完了 国道169号葛川大橋を含む一部区間(延長0.4km)完了
平成19年	4月	国道42号田辺バイパス田鶴トンネル開削事業完了
平成19年	11月	国道42号田辺西バイパス南紀田辺IC接続部(延長0.6km)完了
平成20年	3月	国道42号那智勝浦道路和歌山県新宮市三輪崎～那智勝浦IC間(延長8.9km)完了
平成20年	7月	国道169号奥瀬道路和歌山県東牟婁郡北山村小松～和歌山県新宮市熊野川町玉置口間(延長6.3km)完了
平成21年	3月	国道42号田辺バイパス田辺市田鶴～西牟婁郡上富田町峠間(延長0.3km)完了
平成24年	1月	国道42号紀宝町成川地区の一部を紀勢国道事務所へ移管
平成25年	4月	国道42号新宮紀宝道路和歌山県新宮市あけぼの～三重県南牟婁郡紀宝町神内(延長2.4km)新規事業化
平成26年	3月	国道42号田辺西バイパス田辺市稲成町～芳養町清地路間(延長1.6km)完了
平成26年	4月	国道42号すさみ串本道路和歌山県東牟婁郡串本町サンゴ台～西牟婁郡すさみ町江住(延長19.2km)新規事業化
平成27年	7月	紀勢自動車道(田辺～すさみ)南紀田辺IC～南紀白浜IC間(延長14km)完了
平成27年	8月	紀勢自動車道(田辺～すさみ)南紀白浜IC～すさみ南IC間(延長24km)完了
平成27年	9月	国道42号那智勝浦道路那智勝浦IC～和歌山県東牟婁郡那智勝浦町市屋間(延長6.3km)完了 国道169号奥瀬道路(Ⅱ期)和歌山県新宮市熊野川町玉置口～和歌山県新宮市熊野川町九重間(延長5.2km)完了
平成28年	4月	国道169号奥瀬道路(Ⅲ期)和歌山県東牟婁郡那北山村下尾井～和歌山県東牟婁郡北山村小松(延長3.4km)新規事業化
平成30年	4月	国道42号串本太地道路和歌山県東牟婁郡那智勝浦町八尺鏡野～串本町鬮野川(延長18.4km)新規事業化
平成31年	4月	国道42号新宮道路和歌山県新宮市あけぼの～和歌山県新宮市三輪崎(延長4.8km)新規事業化
令和4年	3月	国道42号田辺西バイパス田辺市芳養町清地路(芳養松原二丁目)～同町大屋間(延長1.6km)完了
令和4年	4月	国道42号田辺市稲成町字新江原から同市芳養町字サビを和歌山県に移管
令和5年	3月	国道169号奥瀬道路(Ⅲ期)和歌山県東牟婁郡北山村下尾井(延長380m)部分供用開始
令和6年	12月	国道42号新宮紀宝道路紀宝IC～新宮北IC(延長2.4km)開通
令和8年	4月	国道42号熊野大橋更新 新規事業化

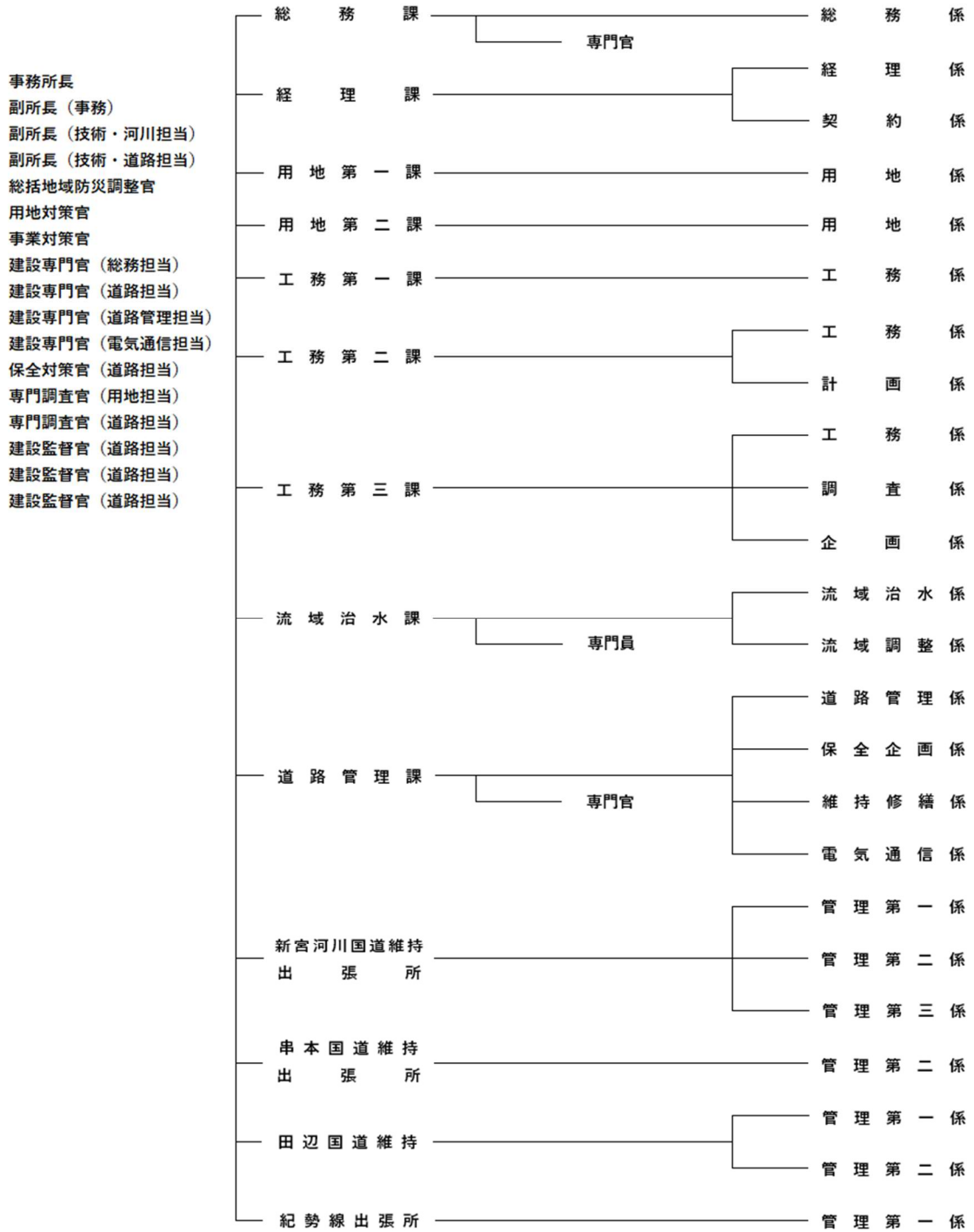
### (2) 概要等

紀南河川国道事務所は、治水事業と道路事業を所掌しており、治水事業は熊野川・相野谷川・市田川の改修、維持修繕及び管理業務を実施、道路事業は新直轄方式による整備区間の近畿自動車道紀勢線と国道42号の改築、維持修繕及び管理業務、国道169号の一部を県の権限代行として一次改築事業を行っている。

治水事業の管理区間は、熊野川本川河口より5km(右岸新宮市、左岸三重県南牟婁郡紀宝町)と左支川相野谷川の5.7km(紀宝町)及び右支川市田川の2km(新宮市)で、直轄管理区間延長は12.7kmである。

道路事業の区間は、国道42号のうち三重県南牟婁郡紀宝町成川～和歌山県御坊市湯川町大字富安間の155.1km(実管理延長171.8km)及び近畿自動車道紀勢線のうち田辺IC～すさみ南IC間39.4kmと改築事業中の新宮道路4.8km、すさみ串本道路19.2km、串本太地道路18.4kmに加え、国道169号のうち和歌山県東牟婁郡北山村下尾井～北山村小松間の約3.4kmである。

### (3) 事務所の組織



組織人員表

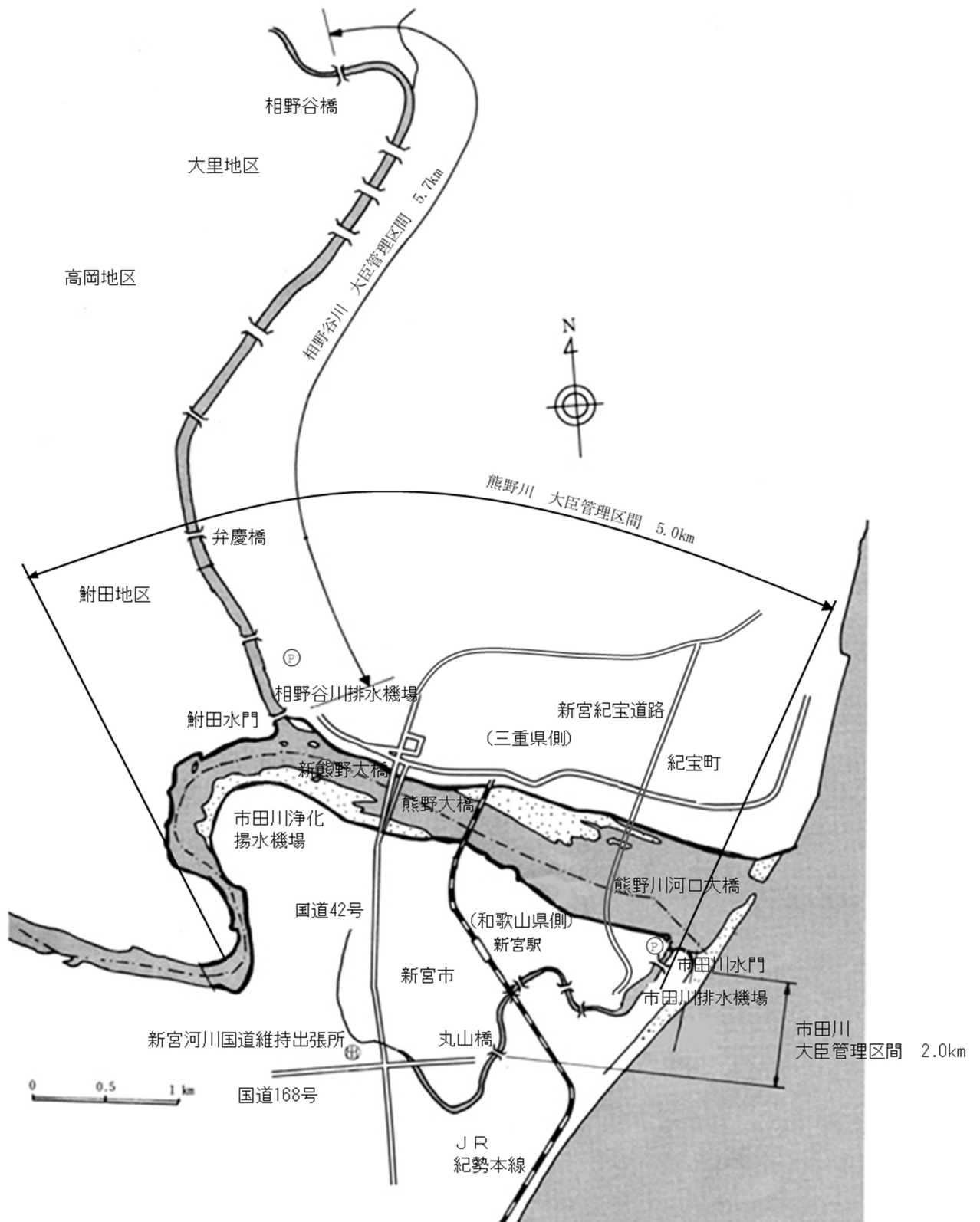
令和8年4月現在

所長	副所長	課長等	係長等	係員	合計
1	3	26	23	21	74

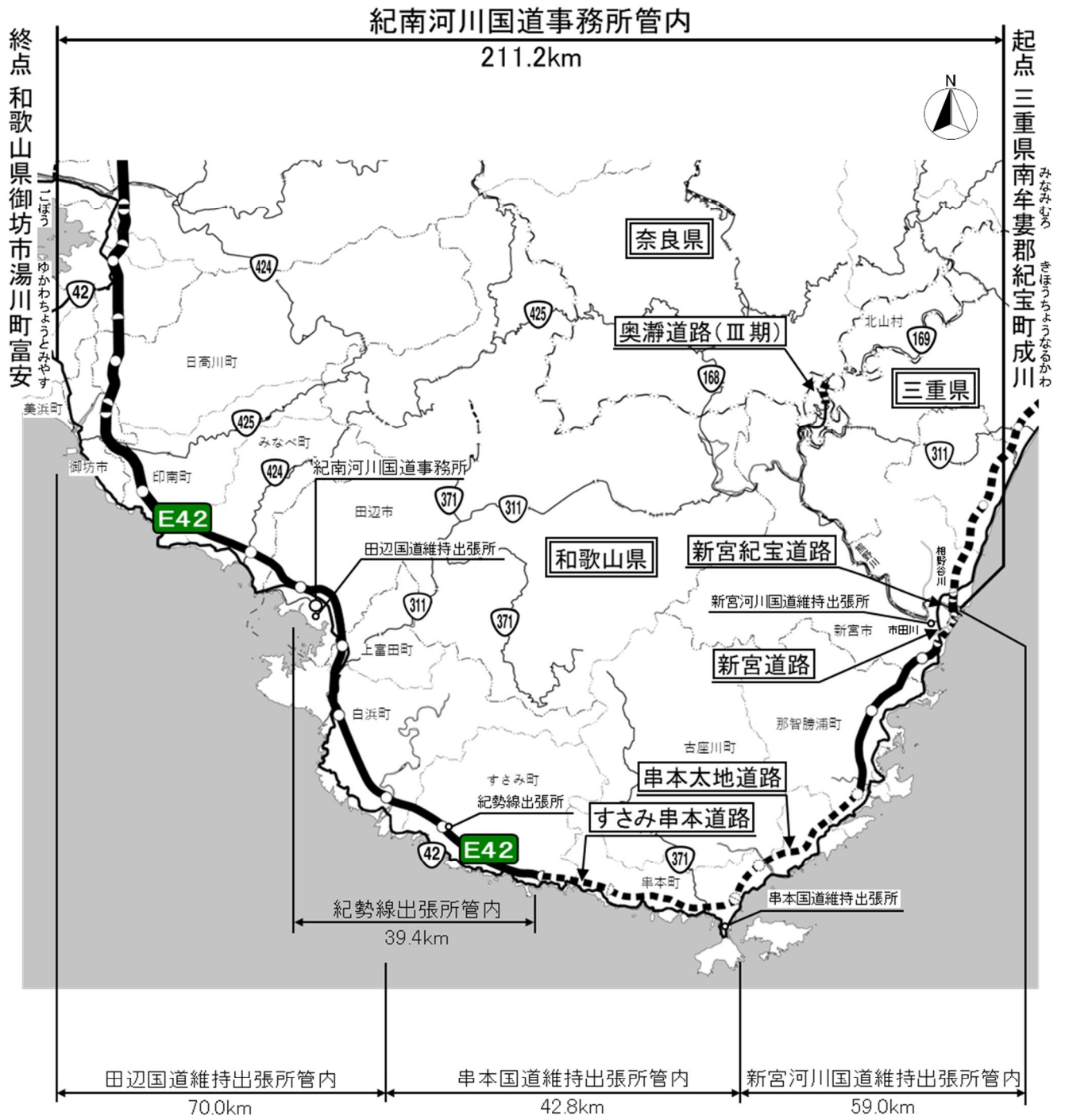
事務官 25人 技官 49人



(4) 紀南河川国道事務所管内図

1) 河川



## 2) 道路



凡 例	
	開通済路線
	事業中路線

## Ⅱ. 河川事業

熊野川河川改修事業は、昭和34年9月の伊勢湾台風を契機に基準地点・相賀での計画高水流量を19,000m<sup>3</sup>/sとして、昭和35年に和歌山県、昭和36年に三重県が小規模改修事業に着手しました。その後、昭和45年4月に一級河川に指定され、人口・資産の集積する河口から5kmの区間を直轄管理区間として、同年に新宮川水系工事実施基本計画を策定しました。また、支川相野谷川は、昭和46年4月に熊野川合流点より6.5kmの区間(捷水路事業により現在は5.7km)、支川市田川は昭和47年5月に、熊野川合流点より2kmの区間を直轄管理区間とし、国による事業を実施しています。

平成23年9月台風12号による紀伊半島大水害では、熊野川及び支川相野谷川の氾濫により426ha、3,322戸が浸水し、相賀地点の最高水位が19.60mを記録する既往最大の洪水となりました。これを契機に、平成23年から河川激甚災害対策特別緊急事業に着手し河道掘削や堤防かさ上げ等を、平成29年からは緊急対策特定区間に指定し河道掘削等を実施することで、平成23年9月洪水に相当する流量でも堤防からの越水を防止するための再度災害防止対策を令和3年度に完了しました。

また、平成29年10月台風21号による出水では、新宮地域気象観測所にて観測史上最大となる総雨量893.5mmを観測し、新宮市街地において118ha、1,124戸が浸水しました。これを契機に、市田川大規模浸水対策計画を平成31年3月25日に策定、国、和歌山県、新宮市が連携して浸水対策を実施していくこととし、国においては市田川排水機場の排水能力増強や河口砂州の掘削等を実施しています。

平成24年7月には河川管理者、ダム管理者、市町村等といった流域の関係者間で緊密な連携を図り、治水対策を推進することを目的とした「熊野川の総合的な治水対策協議会」を設立し、令和2年5月には新宮川水系の河川管理者、ダム管理者及び関係利水者による「新宮川水系治水協定」を締結し、さらに、令和3年9月には「新宮川水系ダム洪水調節機能協議会」を設置し、水系内の全ての利水ダムにおいて事前放流を推進しています。

また、気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化を踏まえ、令和3年3月に「新宮川水系流域治水プロジェクト」を策定し、河川整備に加えあらゆる関係者が協働する流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を推進しています。気候変動をふまえた流域治水の取組を加速・深化させるため、令和6年3月に「流域治水プロジェクト2.0」に更新しました。

さらに、令和3年10月には気候変動の影響による降雨量の増大を考慮し、流域治水の観点も踏まえ、全国に先駆けて新宮川水系河川整備基本方針を見直し、続く令和4年3月には新宮川水系(熊野川)河川整備計画を策定しました。

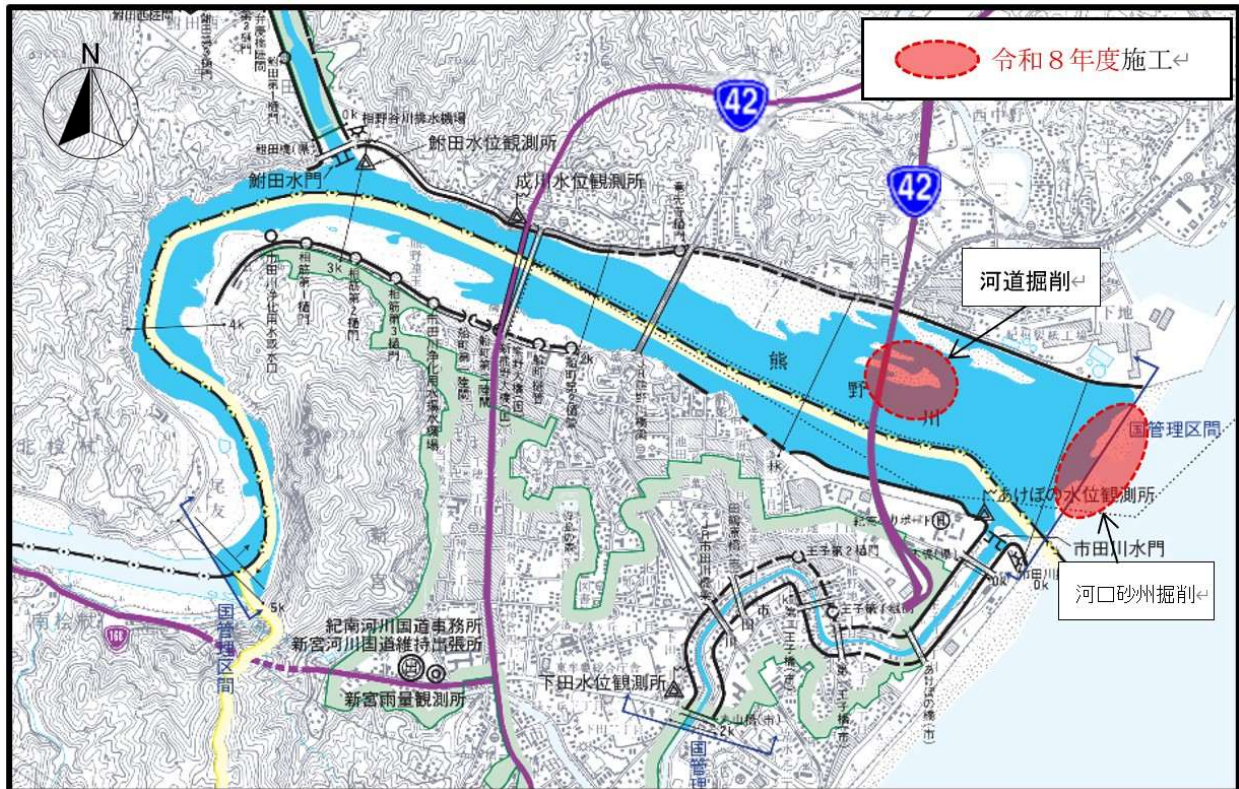
令和8年度は、新宮川水系(熊野川)河川整備計画に基づき、河道掘削等を実施します。

## (1) 河川事業

令和8年度に実施する事業の概要は次のとおりです。

### 1) 一般河川改修事業

令和8年度は、熊野川本川では河道掘削を実施します。



▲熊野川河道掘削



▲河口部砂州掘削

## 2) 河川維持修繕事業

平成31年3月に「熊野川維持管理計画」を更新し、それに基づき日々の河川維持管理に取り組むとともに、これら日々の河川維持管理を評価し、より効果的・効率的な河川維持管理に努めます。また、洪水発生時に備え、日々の河川巡視、河川管理施設の点検を行うとともに、損傷箇所の迅速かつ計画的な補修を実施します。

### ① 河川敷地の管理

河川巡視により、河川区域内の利用状況、不法行為の確認などの状況把握を行い、河川敷地の適正な管理を実施します。



河川巡視（陸上巡視、水上巡視）

### ② 河川管理施設（堤防、排水機場、水門、樋門等）の点検

洪水に備えて、河川管理施設の機能が確実に発揮できるように、定期的に点検を行います。また、洪水発生後における河川管理施設の損傷等を迅速に把握するため、洪水後速やかに巡視・点検を行います。



採水ポンプ配管の点検



排水機場の点検



樋門の点検

### ③ 河川管理施設の補修

河川管理施設の損傷を発見した際には緊急的に補修し、確実に機能が発揮出来るよう対策を行います。今後も、施設の健全度等を確認し、計画的に補修等を行います。



⇒  
護岸の補修



⇒  
堤防の補修



### 3) 流域治水協議会

令和2年9月に「熊野川流域治水協議会」を設立し、令和3年4月に「新宮川水系流域治水プロジェクト」を策定しました。

気候変動をふまえた流域治水の取組を加速・深化させるため、令和6年3月に「流域治水プロジェクト2.0」に更新しました。

今後も対策の実施状況のフォローアップや流域のあらゆる関係者との相互連携を図り、流域治水の推進に取り組みます。



#### ■構成機関（流域治水協議会）

熊野市、紀宝町、五條市、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、田辺市、新宮市、北山村、三重県、奈良県、和歌山県、近畿農政局、近畿中国森林管理局、紀南河川国道事務所、紀の川ダム統合管理事務所、紀伊山系砂防事務所、森林研究・整備機構森林整備センター

### 4) 熊野川減災協議会

「施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」との考えに立ち、社会全体で洪水に備えるため、平成27年12月に「水防災意識社会 再構築ビジョン」が策定され、熊野川においても「熊野川減災協議会」を設立しました。

平成28年7月に防災・減災社会の実現に向け、5年間で達成すべき目標を定めた取組方針を決定し、令和元年9月、令和4年3月に取組方針を改定しました。

今後も取組方針と市田川流域大規模浸水対策計画の実施状況のフォローアップを行います。

#### ■構成機関（減災協議会）

新宮市、田辺市、北山村、紀宝町、熊野市、和歌山地方气象台、津地方气象台、和歌山県、三重県、紀南河川国道事務所



第7回熊野川減災協議会 <R8.1.19>

## 5) ソフト施策

計画を上回るような洪水による被害を最小限にとどめるよう、効果的な状況把握と情報伝達、住民の避難行動に繋がるような各種ソフト対策を積極的に推進します。

### ① タイムライン（事前防災行動計画）

台風接近に先立ち、事前に関係機関が連携し、管理施設の点検や内水浸水に備えた排水ポンプ車の配置調整・事前準備を行うと共に、台風による水位上昇量の見通しをテレビ会議を活用し、自治体に伝えるなど、住民避難に繋がるような情報共有を行います。



新宮市との連携



紀宝町タイムライン連携会議



排水ポンプ車配備状況（新宮市）



排水ポンプ車配備状況（紀宝町）

浸水発生の可能性がある場合に、速やかに機械の設置が出来るよう、自治体と協同で訓練を実施します。



排水ポンプ車設置訓練

### 【マイ・タイムライン】

ハザードマップやマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を使用して、洪水時の一人ひとりの防災行動計画となる「マイ・タイムライン」を実際に作成しました。引き続き、他の自治体においても「マイ・タイムライン」の作成を支援します。



マイ・タイムライン講習会（新宮市）

## ② SNSによる情報配信

水位や雨量などの河川管理上の情報を住民の方にリアルタイムで届くよう、X（旧 Twitter）を活用し、情報を配信しています。一定の降雨量や急な水位情報がある場合は365日24時間自動配信しています。



水位情報

降雨情報

X（ツイッター）画面

## ③ 防災授業・出前講座

自治体教育委員会と連携し、防災力向上のための授業を実施しています。生徒自身が防災行動を考え、自由に発言してもらうことで、地域の避難行動の率先者を育成します。



新宮市立熊野川中学校での授業風景（R7. 12）

### Ⅲ. 改築道路事業

紀南河川国道事務所管内の一般国道42号は、昭和34年に一次改築に着手し、昭和44年に完成しました。しかし、急峻な地形を通っているため、急傾斜が多く土砂崩落の危険性がある箇所が連続しており、異常気象時の通行規制区間が実管理延長[172.1km]の約3分の1[68.3km]もあります。また、線形の厳しい箇所や災害リスクの高い箇所が多く、巨大地震発生時には津波により当該地域唯一の幹線道路である一般国道42号は浸水し、橋梁など道路施設に重大な損傷が懸念され、通行不能箇所の発生が予測されることから、安定した交通を確保するための道路整備が必要となっています。

近畿自動車道紀勢線は、大阪府松原市を起点とし、和歌山県和歌山市及び田辺市等を経由し、三重県多気郡多気町に至る延長約340kmの高規格幹線道路です。

このうち、京阪神と紀南地域を結ぶ高速ネットワークの一部を形成し、広域連携強化、災害時の交通確保、地域の活性化、交通環境の改善を目的に国土開発幹線自動車道として、平成17年度までに新直轄方式で事業を行うことが決定された紀勢線（田辺～すさみ）[延長39.4km]について、平成27年7月に南紀田辺IC～南紀白浜IC間[延長14.4km]を、平成27年8月に、南紀白浜IC～すさみ南IC間(延長25.0km)を、それぞれ暫定2車線で開通しました。

高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路として、令和6年12月7日に、新宮紀宝道路[延長2.4km]が開通しました。引き続き、輸送時間の短縮や緊急医療活動の支援、災害時における代替機能の確保等を目的として、新宮道路[延長4.8km]の整備、一般国道42号の異常気象時通行規制区間の解消、防災・災害時の代替路及び、安心・安全な医療機関へのアクセス性の確保を目的として、すさみ串本道路[延長19.2km]・串本太地道路[延長18.4km]の整備をそれぞれ推進します。

さらに、直轄権限代行により一般国道169号の一次改築事業として、異常気象時通行規制区間及び、幅員狭小、線形不良区間を解消し、災害に強いネットワークを形成、孤立集落の解消を目的として、奥瀬道路(Ⅲ期)[延長3.4km]を推進します。

その他に、令和8年4月に熊野大橋更新を新規事業化し、地域の水防機能の向上と自転車歩行者の通行空間の確保を目的として、旧熊野大橋[橋長418.5m幅員6.5m]の撤去と、新熊野大橋[橋長444.84m幅員10.4m]に自転車歩行者[3.0m]の通行空間の整備を推進します。

(1) 近畿自動車道紀勢線

令和8年度に実施する事業の概要は次のとおりです。

1) すさみ串本道路<sup>くしもとどうろ</sup>

すさみ串本道路は、一般国道42号の和歌山県東牟婁郡串本町サンゴ台～同県西牟婁郡すさみ町江住間を結ぶ延長19.2kmの自動車専用道路で、異常気象時通行規制区間の解消、防災・災害時の代替路確保を主な目的としています。平成26年度に事業化し、令和8年度は水文調査、環境調査、道路設計、公共移設補償、事業損失補償、改良工、橋梁上部工、道路設備工、舗装工を推進します。令和9年夏開通予定としています。

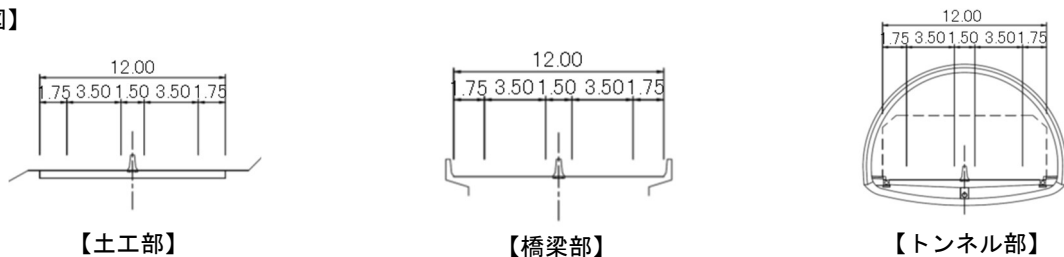


(1) 田並川橋



(2) 串本IC (仮称)

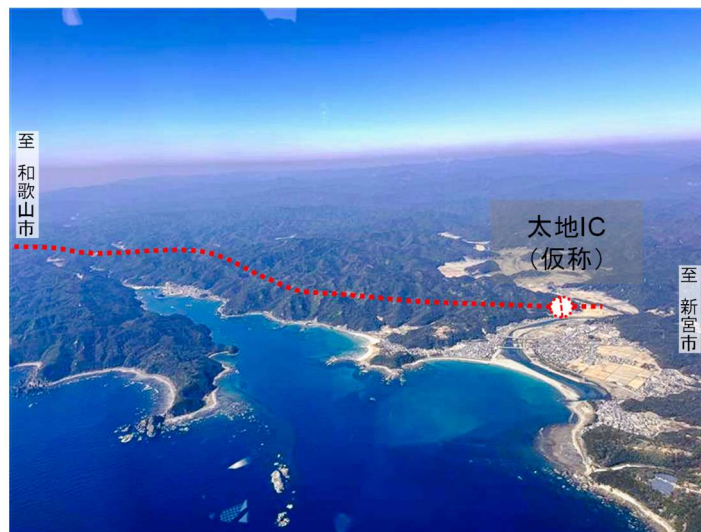
【標準断面図】



(単位:m)

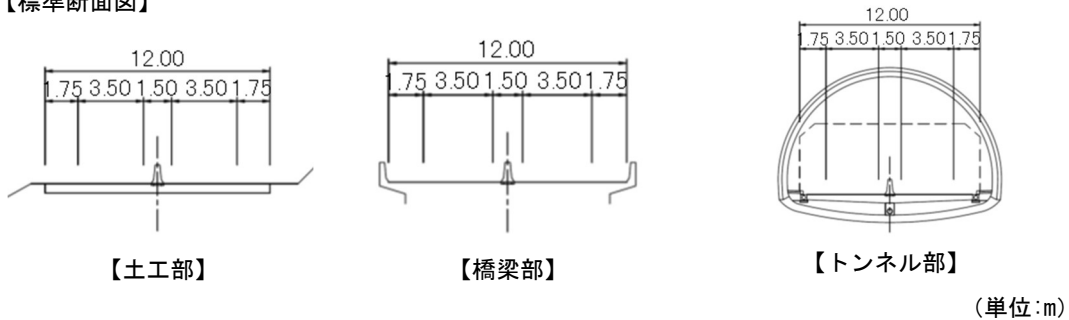
くしもとたいじ どうろ  
**2) 串本太地道路**

串本太地道路は、一般国道42号の和歌山県東牟婁郡那智勝浦町八尺鏡野～同郡串本町鬮野川間を結ぶ延長18.4kmの自動車専用道路で、異常気象時通行規制区間の解消、津波や越波などによる、防災・災害時の代替路確保を主な目的としています。平成30年度に事業化し、令和8年度は環境調査、道路設計、橋梁設計、トンネル設計、用地調査、用地取得、改良工を推進します。



太地IC (仮称) 付近

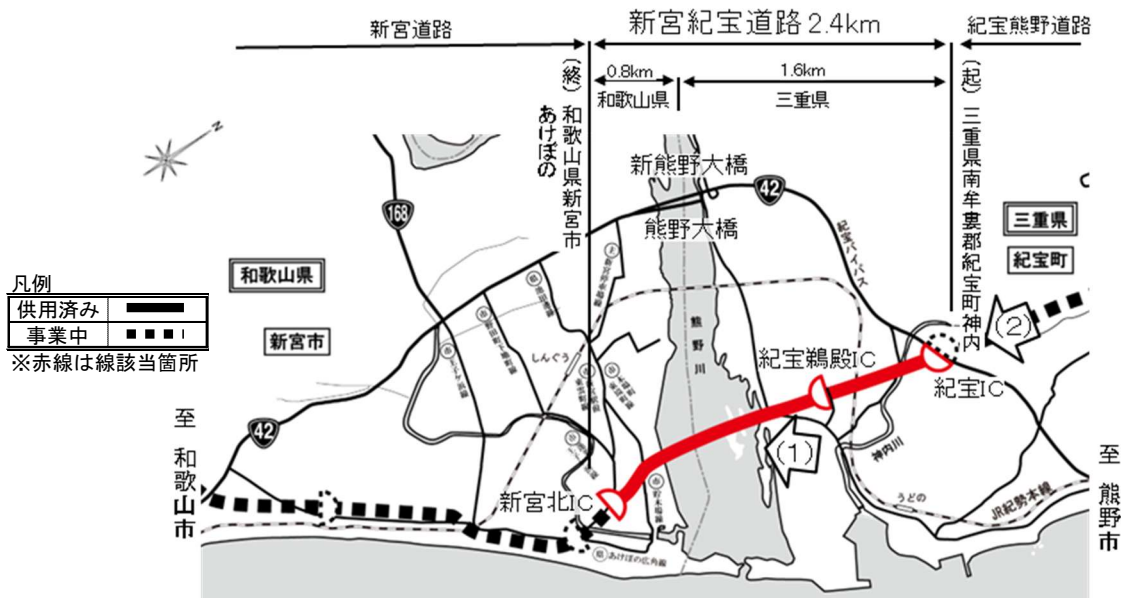
**【標準断面図】**





4) <sup>しんぐう きほう どうろ</sup>新宮紀宝道路（令和6年12月7日全線開通）

新宮紀宝道路は、一般国道42号の三重県南牟婁郡紀宝町神内～和歌山県新宮市あけぼの間を結ぶ延長2.4kmの自動車専用道路で、新宮市街及び一般国道42号熊野大橋、新熊野大橋における交通混雑の緩和、災害時の代替機能の確保を主な目的としています。平成25年度に事業化し、令和6年12月7日に開通しました。令和8年度は、事業完了に向けて残工事の実施。

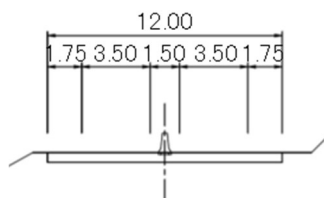


(1) 熊野川河口大橋

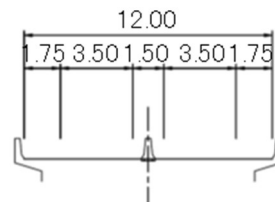


(2) 紀宝IC

【標準断面図】



【土工部】

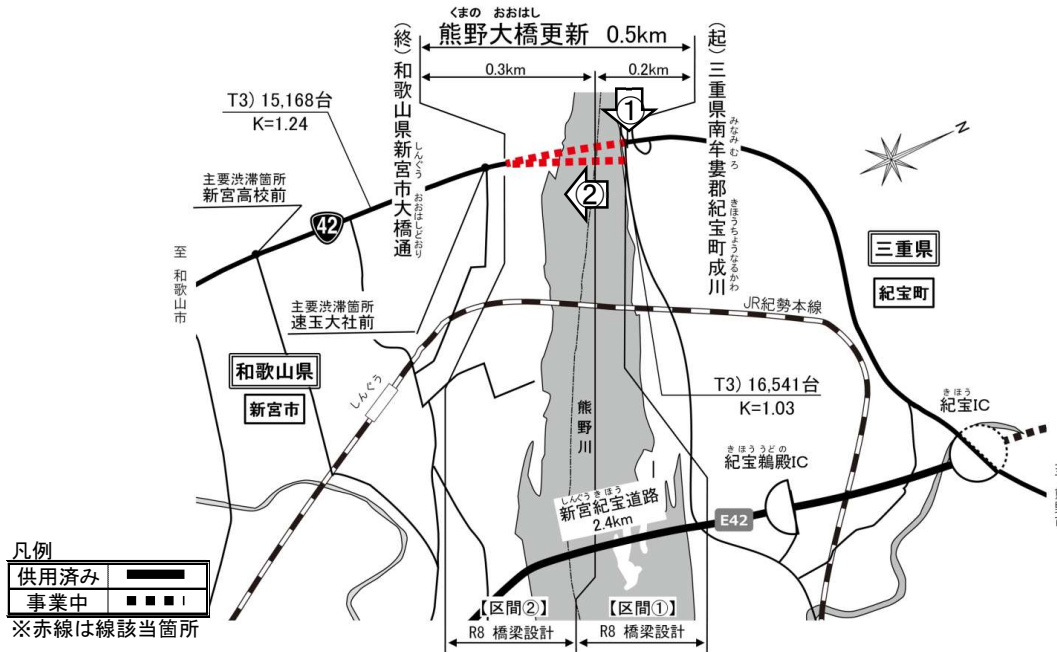


【橋梁部】

(単位:m)

くまのおおはしこうしん  
**(2) 熊野大橋更新 [令和8年度 新規事業化]**

一般国道42号の熊野大橋更新は、地域の水防機能の向上と自転車歩行者の通行空間の確保を目的に、経年劣化により耐荷性能低下がみられる旧熊野大橋（橋長418.5m 幅員6.5m）を撤去し、新たに隣接する新熊野大橋（橋長444.84m 幅員10.4m）に自転車歩行者（3.0m）の通行空間確保を目的として令和8年度に新規事業化されました。令和8年度は橋梁設計を推進します。



(1) 紀伊半島大水害(H23.9)の被害状況

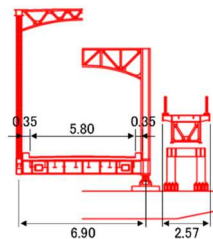


(2) 熊野大橋の状況

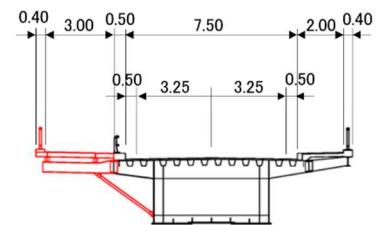
【標準断面図】



【撤去部：ポニートラス橋】



【撤去部：ワーレントラス橋】



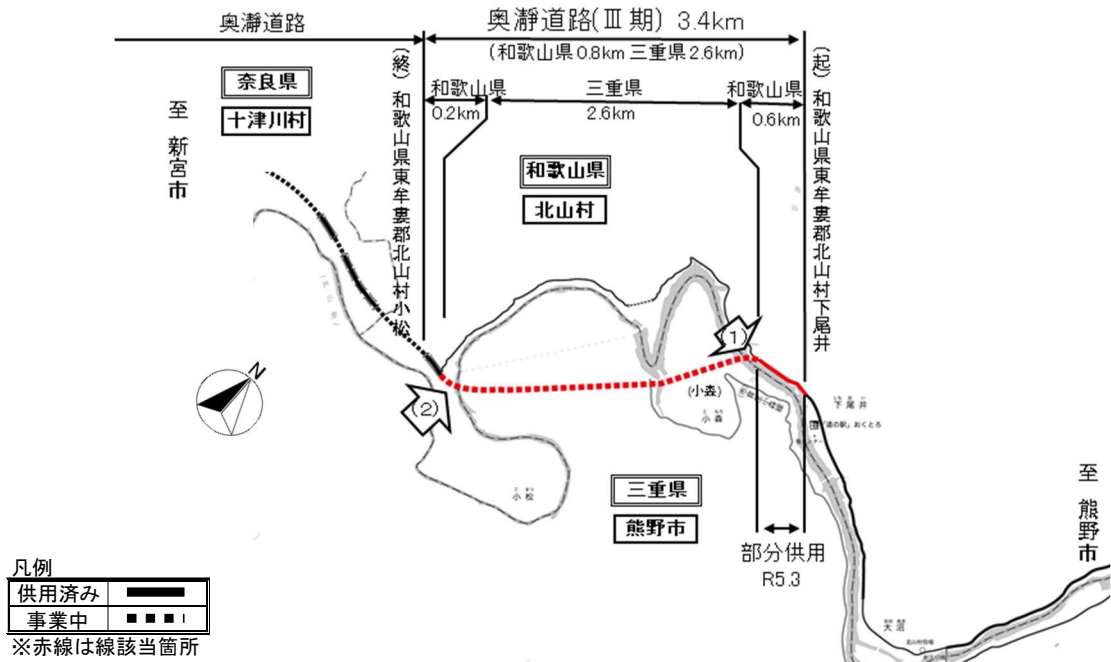
【橋梁幅：新熊野大橋】

(単位:m)

### (3) 直轄権限代行

#### 1) 奥瀬道路(Ⅲ期)

奥瀬道路(Ⅲ期)は、一般国道169号の和歌山県東牟婁郡北山村下尾井～同村小松間を結ぶ延長3.4kmの道路で、一般国道169号の異常気象時通行規制区間及び、幅員狭小、線形不良区間を解消し、災害に強いネットワークを形成、孤立集落の解消を主な目的としています。平成28年度に新規事業化し、令和8年度は改良工、橋梁上下部工を推進します。

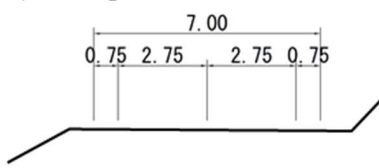


(1) 1号橋

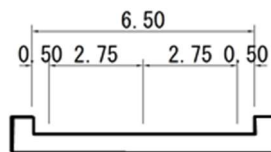


(2) 3号橋

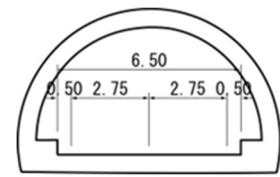
#### 【標準断面図】



【土工部】



【橋梁部】



【トンネル部】

(単位:m)

## IV. 道路管理

道路管理では、管内の道路が常時良好な状態に保たれるように(道路法第42条)維持、修繕、管理を実施しています。また、メンテナンスサイクルの一層の効率化・高度化につなげていくために、トンネル、橋梁、舗装の定期点検及び道路巡視における点検においては新技術を活用し、インフラメンテナンス 2.0 の取り組みを推進します。

### (1) 暮らしを守る道路管理

#### 1) 道路敷地の管理（道路法第18条関係）

道路構造物などを保全するため、道路区域の決定・変更や道路敷地の境界明示を通して、道路敷地の適正な管理を行っています。なお、当事務所が管理している国道の境界明示などに係る申請は、各出張所を受付窓口としています。



境界杭の設置状況

#### 2) 機械の管理

道路関係では、降雨時に地下歩道内に流入する雨水や地下湧水を排水するための道路排水設備、トンネル火災時の消火活動を行うための消火設備を設置、維持管理を行っています。また、水や地下湧水を排水するための道路排水設備、トンネル火災時の消火活動を行うための消火設備を設置、維持管理を行っています。



ジェットファンの点検

災害等発生時に迅速な対処を行うため、道路パトロールカー、照明車、排水ポンプ車など、各種特種車両を保有しています。

#### 3) 道路に関する許認可事務

##### ①道路の占用許可（道路法第32条）

道路は一般的に通行する目的で使用されますが、公共施設や看板、公益事業（電気、通信、ガス、上水道、ライフラインなど）を道路に設ける場合も想定されます。道路に一定の工作物又は施設を設ける行為を「占用」と言い、占用する場合は許可が必要です。

そのような道路占用に対する許認可事務を行っています。



不法占用の是正指導

##### 【不法占用物件の是正指導】

占用許可を受けずに設けられている物件を調査し是正の指導を行っています。是正指導等に応じない場合は、罰則等があります。

## ②請願工事の承認（道路法第24条）

道路管理者以外の方が、車の出入り（乗入れ）や造成のための法面の埋め立て等、自らの目的のため工事を行うには、道路管理者から「道路工事施工承認書」を受けなければなりません。そのような「請願工事」に係る許認可事務を行っています。

## 4) 維持作業

パトロール、点検を通じて確認したデータを蓄積すると共に、道路に異常があれば迅速に補修等の対応を行い、日々の交通安全の確保に努め、構造物、道路附属物の損傷、老朽化などの機能低下に対処します。



パトロールの状況



路面補修

## 5) 清掃・植栽管理

路面の排水施設の清掃、街路樹の剪定、法面の除草などにより、道路交通の安全確保、道路環境の安全、快適性を保ちます。



側溝清掃



越波後の路面清掃

## 6) 雪氷対策

除雪作業や凍結防止剤散布により、冬期の道路交通を確保します。



除雪作業



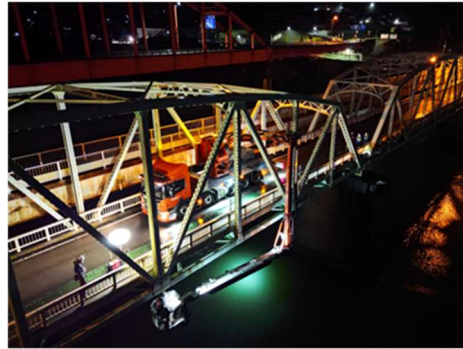
凍結防止剤散布作業

## (2) 道路構造物の老朽化対策

橋梁・トンネル等の5年に1度の近接目視による定期点検を着実に推進するとともに、点検結果に基づいた措置を計画的に実施します。また、体制・技術面で課題のある地方公共団体に対して、支援を実施します。

### 1) 橋梁点検

管内においては、令和7年度末時点で358橋（橋長2m以上）の橋梁があり、点検は道路利用者や第三者への被害の回避、橋など長期にわたる機能不全の回避など、橋梁に係る維持管理を適切に行うために実施しています。



橋梁点検車による点検

### 【令和8年度の主な点検箇所】

くまのがわがこうおおほし しんぐうし  
熊野川河口大橋（新宮市）

しもさいばし ひがしむろ くしもとちよう  
下才橋（東牟婁郡串本町）

しんひきこばし にしむろ しらはま  
新日置小橋（西牟婁郡白浜町）

あまだばし ごぼう  
天田橋（御坊市）

たまのうらばし ひがしむろ なちかつうら  
玉之浦橋（東牟婁郡那智勝浦町）

あまどりばし にしむろ  
天鳥橋（西牟婁郡すさみ町）

あきづこうかきよう たなべ  
秋津高架橋（田辺市）

### 2) トンネル点検

管内には65箇所のトンネルがあり、点検は利用者への被害の回避、通行止めなど長期にわたる機能不全の回避などのトンネルに係る維持管理を適切に行うために実施しています。



近接目視点検



新技術の活用  
（自走式測定車による点検）

## 【令和8年度の主な点検箇所】

きのがわ しんぐう  
木ノ川トンネル(新宮市)

たかはま ひがしむろ くしもと  
高浜トンネル(東牟婁郡串本町)

つばき にしむろ しらはま  
椿トンネル(西牟婁郡白浜町)

ゆのうら ひがしむろ なちかつうら  
湯ノ浦トンネル(東牟婁郡那智勝浦町)

すさみだいichi にしむろ  
周参見第一トンネル(西牟婁郡すさみ町)

いなり たなべ  
稲成トンネル(田辺市)

### 3) 道路附属物点検

管内の道路附属物(道路標識、道路照明施設、道路情報提供装置及び道路情報提供装置など)について、現状を正確に把握し、変状を早期に発見することを目的として点検を実施します。

点検結果に基づき、必要な措置を適切かつ確実に実施することで、道路利用者および第三者に対する事故リスクを低減し道路交通の安全性および円滑性を確保します。



道路標識の点検



道路照明施設の点検

### 4) 道路土工構造物点検

管内の道路土工構造物(切土・斜面安定施設、盛土、カルバートなど)について、現状を正確に把握し、変状を早期に発見することを目的として点検を実施します。

点検結果に基づき、必要な措置を適切かつ確実に実施することで、道路利用者および第三者に対する事故リスクを低減し道路交通の安全性および円滑性を確保します。



切土のり面の点検



カルバートの点検

## 5) 橋梁の補修・耐震工事

南海トラフ地震の発生が懸念される状況のもと、橋梁の構造的健全性を確保し、緊急輸送道路としての機能を維持するため、定期点検において補修の必要性が確認された橋梁について、劣化部位の補修や部材の補強、防食性能の回復を目的とした各種補修工事を計画的に実施しています。



橋梁補修工事（塗替塗装）



橋梁補修工事（断面修復）

### 【令和8年度の主な工事箇所】

いごぎこうかきょう にしむろ しらはま  
伊古木高架橋（西牟婁郡白浜町）

## 6) 和歌山県道路メンテナンス会議

和歌山県道路メンテナンス会議は、県内における道路施設の維持管理、補修および更新を、より効果的かつ効率的に推進することを目的として設置しています。

本会議では、道路ネットワークにおいて密接な関係を有する各道路管理者が連携し、点検結果や修繕計画などの情報を共有することで、道路構造物の予防保全および老朽化対策を強化し、円滑な道路管理の推進に努めています。また、メンテナンス技術の向上を図るために、点検方法に関する新技術の導入や活用支援などの取組みを実施し、道路管理の高度化に向けた体制整備を進めています。



令和7年度第1回和歌山県道路メンテナンス会議



新技術活用支援（橋梁点検研修）

## 7) 道路照明灯

エネルギー消費量の抑制、電気料金の低減のため、道路照明灯のLED化を進めています。平成25年度までで、御坊市から田辺市までの国道42号においては完了しており、現在は田辺市以南の国道42号において、LED化完了を目指して整備を進めています。令和7年度末時点で1,885灯中1,788灯のLED化を完了(94.9%)しています。

## 8) トンネル照明設備

トンネル照明設備についても、設置年度の古いトンネルから順次LED化を実施しています。R7年度末時点で60トンネル中55トンネルLED化完了(91.7%)しています。



LED化前



LED化後

## 9) トンネル非常用設備

トンネル内での事故発生時に初期対応が出来るよう、警察・消防・管理事務所へ通報する非常電話機や、トンネル坑口での警報表示・サイレン吹鳴・管理事務所への警報発報を行う押釦発信機などがあります。



## 10) 道路情報表示装置

道路災害、工事情報等各種の道路情報を道路利用者へ提供するための設備ですが、老朽化が進んだ設備は表示輝度が低下し、ドライバーの判読に支障をきたす恐れがあるため、順次更新を実施しています。



### (3) 道路の防災・震災対策

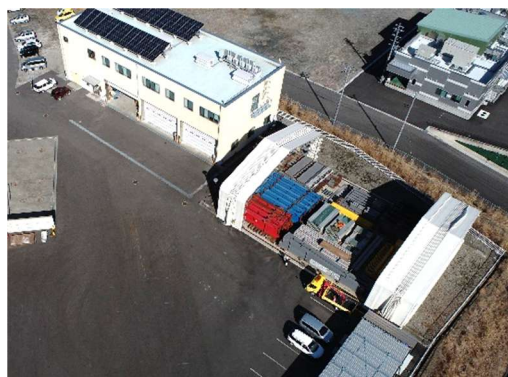
南海トラフ地震に伴う津波浸水による大規模な道路災害を想定した対策を進めています。また、南海トラフ地震対応のCCTV設備の新設や既設のCCTVの停電対策にも取り組んでいます。

#### 1) 南海トラフ地震に伴う津波浸水に関する「和歌山県道路啓開協議会」

紀勢自動車道と一般国道42号並びにそれらに接続する和歌山県管理の一般国道、県道及び市町村道その他の道路の地震災害に対し、関係行政機関及び関係業団体等の連携・協力により、道路啓開を強力かつ着実に推進することを目的に、道路法第28条の2に基づき協議会を設置し、対策を協議しています。

#### 2) すさみ防災基地

すさみ防災基地は、紀勢自動車道すさみICに隣接して南海トラフ地震やその他大規模災害時に、全国から招集されるTEC-FORCEの最前線基地等として情報収集・道路啓開等の活動を行う施設です。



#### 3) 協力業者との災害協定

災害等が発生した場合に相互に協力して被害の拡大の防止と早期復旧を目的に、紀南河川国道事務所管内の5つの関係事業団体と災害時における災害応急対策業務に関する協定を締結しています。

#### 4) 道路啓開訓練

すさみ防災基地にて、南海トラフ地震などによる津波災害を想定し、建設業協同組合等関係機関と連携して訓練を実施しています。訓練内容として、橋梁の緊急復旧、放置車両の移動等を行っています。訓練を積み重ねて、緊急時に備えています。



緊急仮設橋の組立



緊急仮設橋組立後の走行



放置車両の移動

#### 5) 資材の配備

管内には、津波により流出の恐れのある橋梁の緊急復旧資材として、緊急車両の交通路を確保する「緊急仮設橋」の部材を配備しているほか、一般車両の交通路を確保する「応急組立橋」の部材についても配備しています。

## 6) 越波防止対策

管内の海沿いを走る国道においては、台風や高潮の影響により越波（波が国道に押し寄せ、石など道路に飛来する）が発生するため、道路利用者に危険が及ぶ可能性のある区間について、越波防止柵を整備します。



越波による道路の被災状況



越波防止柵

## 7) 道路法面の防災対策

地震・豪雨による土砂災害等の発生を防止するために、対策必要箇所において法面対策を実施します。

<主な対策>



落石防護柵工



ポケット式落石防止網工



ワイヤーロープ掛工



法枠工

## 8) CCTV設備

道路状況の迅速な把握、監視を行うための設備であり、近年ますます重要視されてきています。越波、冠水区間等重要箇所での監視強化のため、非常用電源の設置も行っています。将来予想される、南海トラフ地震等の大規模災害時においても映像を送り続けられるよう、非常用電源や無線伝送装置の整備、高台への設置を行っている設備もあります。



CCTV設備



CCTV設備（拡大写真）

## 9) 道の駅

道の駅に立ち寄った道路利用者が気軽に各種情報を得られるように、Wi-Fiフリースポットの整備を7箇所の道の駅において実施しています。また、情報提供の充実を図るため、大型モニターによるCCTV映像、観光情報等の情報表示を行っています。さらに「道の駅すさみ」は、南海トラフ地震等の大規模な災害発生時、近隣住民、道路利用者等が避難するための機能、道路啓開活動拠点の機能、救援物資の供給拠点の機能を有し、すさみ町地域防災計画に位置づけられた道の駅となっています。また、「道の駅すさみ」は、令和3年6月に広域的な防災拠点としての役割を果たすため、防災施設の整備等の重点支援対象となる「防災道の駅」に選定されました。



道の駅すさみ



情報提供施設

## V. 交通安全対策事業

### (1) 事故ゼロプラン

国土交通省では、事業の透明化・効率化を一層高めるため、交通事故対策において、データや地域の声に基づいた「事故ゼロプラン」の取り組みを進めています。「事故ゼロプラン」は、県内で事故が多発する直轄国道を対象に、事故の危険性の高い区間を選定し重点的に対策を進めていくものです。

和歌山県内では、紀南河川国道事務所と和歌山河川国道事務所が管理する国道から、「事故ゼロプラン（和歌山県）」として事故の危険性の高い区間（事故危険区間）を選定しました。

今後は、これらの区間に対して優先的に集中的に対策を実施していくことで、効率的に交通事故を減少させていくことを目指します。

### (2) 交通事故重点対策事業・交通安全施設等整備事業（一種）

交通の安全を確保する必要がある小区間について、歩道の整備若しくは交差点改良等に関する事業を実施します。

#### 1) 令和8年度実施事業

##### 【国道42号交通安全対策】

- |                  |         |                              |
|------------------|---------|------------------------------|
| ・ 佐野・宇久井地区歩道整備事業 | 0. 9 km | (和歌山県新宮市佐野<br>～東牟婁郡那智勝浦町宇久井) |
| ・ 袋地区歩道整備事業      | 1. 8 km | (和歌山県東牟婁郡串本町串本)              |
| ・ 田並地区自転車通行空間    | 1. 6 km | (和歌山県東牟婁郡串本町田並～江田)           |
| ・ 津井地区歩道整備事業     | 0. 1 km | (和歌山県日高郡印南町津井)               |
| ・ 名田地区歩道整備事業     | 3. 4 km | (和歌山県御坊市名田町)                 |
| ・ 丸山地区歩道整備事業     | 0. 6 km | (和歌山県御坊市湯川町丸山)               |

#### 2) 歩道の整備

安全で快適な歩行空間を確保するために、歩道未整備箇所等の歩道整備を行います。

##### 【国道42号 御坊市丸山地区歩道整備事業】

御坊市丸山地内の国道42号は、湯川小学校の通学路に指定されていません。しかし、歩道が不連続で歩行者の安全が確保されておらず、危険な状態となっています。歩道整備を行い、安全な歩行空間を確保するために事業を推進しています。

令和8年度には、引き続き歩道整備等の改良工事を行います。

### 【歩道の整備事例】

(整備前)



(整備後)



### 3) 交差点改良

交通事故の多発する交差点において、事故の削減を目的として交差点改良を行います。

#### (3) 交通事故重点対策事業・交通安全施設等整備事業(二種)

交通事故の削減、交通安全の確保、的確な道路情報の提供を目的として、道路標識、防護柵、区画線に関する事業を実施します。

## VI. 紀南河川国道事務所 KX推進の取り組み

紀南河川国道事務所では新しい挑戦として、「KX (Kinan Transformation)」を推進しています。



**道路** 3D建設プリンタを使用した重力式擁壁施工

**道路** 設計業務におけるBIM/CIM活用

**道路** 国総研DXデータセンター実証実験への取り組み

**道路** ドローン隊の運用

**河川** 熊野川河口砂州・河川管理施設の効率的・迅速な把握・共有

**河川** 新宮川市域における洪水浸水想定区域図の3次元化



**河川** 木材利用紀州材を活用した地場産業活性化



**道路** 太地町自動運転（社会実験）の取組支援



**道路** すさみ串本道路 廃校利用プロジェクト

**全体** TEC-FORCE  
(令和6年能登半島地震における支援)

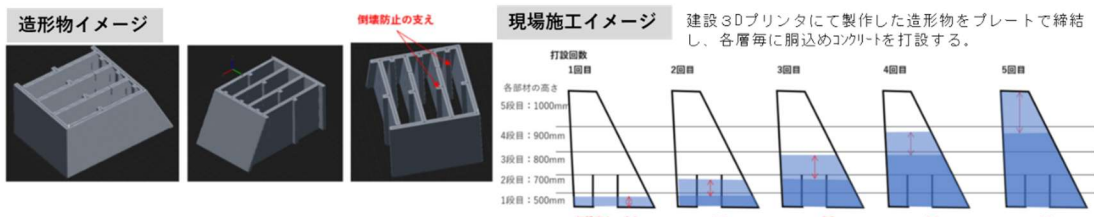
**道路** 道路ネットワーク全体のサービス向上の実現 (WISNET2050)

(1) DX推進の取り組み（道路改築事業）

各道路事業の段階にあわせ、すさみ串本道路では3Dプリンタによる重力式擁壁施工技術を活用した現場施工を進め、串本太地道路・新宮道路では設計段階におけるBIM/CIM活用を進めます。また、すさみ串本道路では、国総研DXデータセンターを活用した受注者とのBIM/CIMデータ連携を進めます。

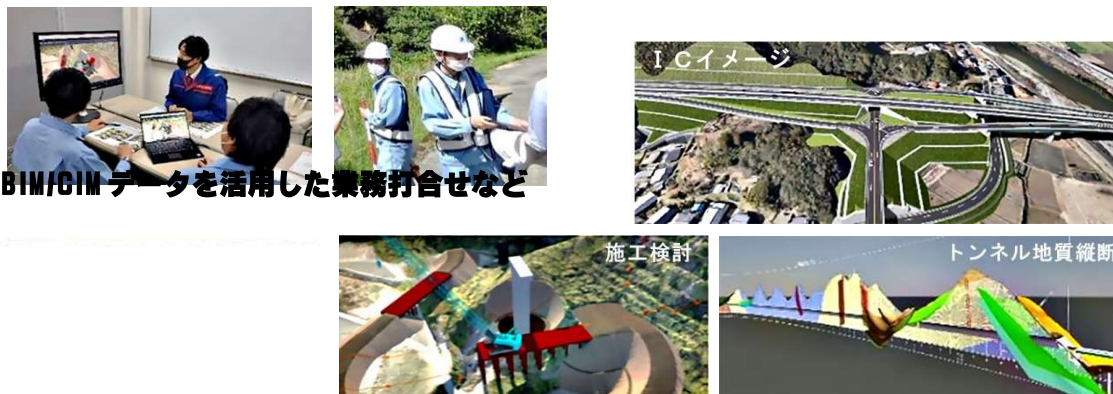
1) 3D建設プリンタを使用した重力式擁壁施工〔すさみ串本道路〕

建設業就業者は平成9年をピークに令和5年度には約2/3程度に減少しています。さらに建設業就業者の高齢化となり、10年後の技能者不足は深刻化が推測できます。技能者の減少が顕在化するなか新たな施工方法を確立していくことが重要となり、建設3Dプリンタにおいて将来の建設現場にどのように活用できるかを検討し、課題解消に繋がることを目的とし推進します。



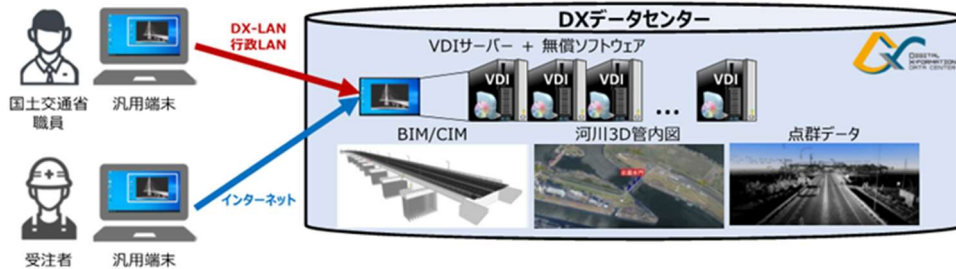
2) 設計業務におけるBIM/CIM活用〔串本太地道路・新宮道路〕

設計業務の打合せでは、検討内容の打合せや関係機関協議において「BIM/CIM」を用いながら打合せを行い、さらに現地踏査時におけるMR活用など「BIM/CIM」を活用した業務の推進を図ります。



### 3) 国総研DXデータセンター実証実験への取り組み〔すさみ串本道路〕

BIM/CIM等の3次元データを一元的に保管し、ICT施工時の3次元起工データなど受発注者が活用していくためのシステムとして、国総研が進めるDXデータセンター活用に向けた実証実験を進めています。



### 4) ドローン隊始動！ドローン訓練

被災箇所を迅速かつ安全に調査するため、離れた場所において被災情報を効果的・効率的に取得することが可能なドローンを用いて訓練を行っています。

訓練は、各種手続きや関係法令の学習、組立・解体、基本操作練習を行い今後も継続してドローン訓練を実施していきます。



紀南の『K』と『X』にドローンを組み合わせ、紀南河川国道事務所のトランスフォーメーションの一つがドローン隊であるというシンボル

#### 【各種手続きや関係法令】

基礎となるマニュアルを確認するとともに、能登半島地震における飛行禁止区域など情報共有。またDIPSを用いた「飛行計画申請」を行います。



**被災状況調査 (案)**

7. 緊急 令和5年度緊急用務空域 公示第5号 国土交通省

令和6年1月1日に石川県能登地方で発生した令和6年能登半島地震について、以下のとおり国土交通大臣による航空法第132条の85による無人航空機の飛行禁止空域の指定を行いました。

**無人航空機の飛行禁止空域** 国土交通省

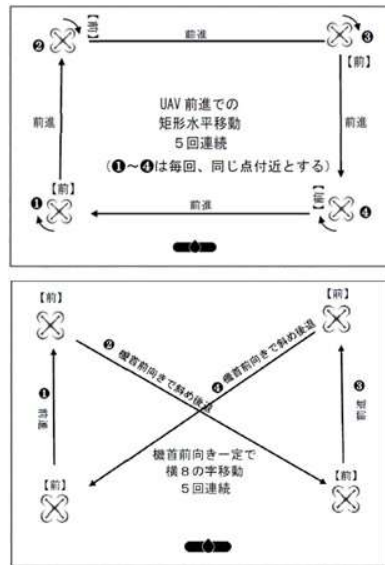
(A) (B) (C) …… 航空機の航行の安全に影響をおよぼすおそれがある空域 (法132条第1項第1号)  
 (D) …… 人または畜産の密集している地域の上空 (法132条第1項第2号)

※空域等の周辺、150m以上の空域、人口集中地区 (DID) 上空の飛行許可 (包括許可含む。) がある場合、緊急用務空域を飛行させることはできません。無人航空機の飛行をする前には、飛行させる空域が緊急用務空域に設定されていないことを確認してください。(令和3年6月1日施行)

## 【基本操作練習】

基本操作練習では、ドローン隊メンバーが中心となって、初心者へ指導します。

※ドローン隊は令和6年1月10日新たに発足



## 【被災現場想定訓練】

被災現場想定訓練では、3つのミッション（堆積土砂の土量推定、崩落法面と里道の被災状況確認、ボックスカルバート確認）を実施します。



(2) DX推進の取り組み（河川管理事業）

1) 熊野川河口砂州・河川管理施設の効率的・迅速な把握・共有

現在の取り組み状況

ウェアラブルカメラ(リアルタイム配信)による河川点検、水上巡視



今後の展開

被災時のリアルタイム配信による情報共有の迅速化

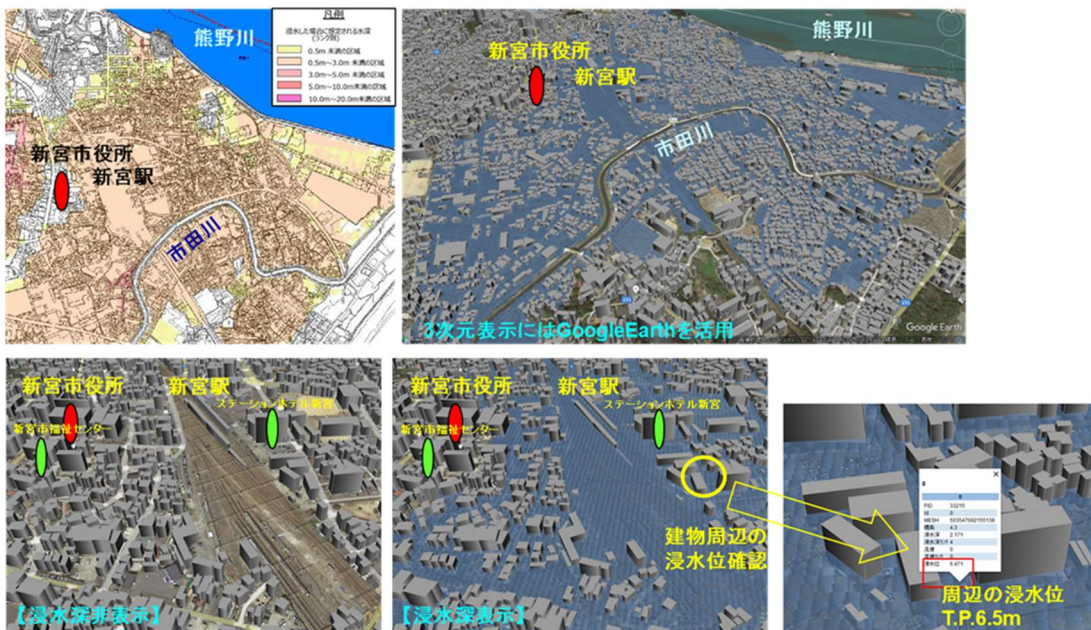


リアルタイム映像配信

2) 新宮川市域における洪水浸水想定区域図の3次元化

既公表の洪水浸水想定区域図について3次元化を実施しています。これにより建物と浸水深の関係を立体的に把握が可能です。水没する建物、垂直避難が可能な建物の把握が可能です。

通常の洪水浸水想定区域図（想定最大規模） 3次元の洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



### (3) MX推進の取り組み（太地町自動運転の支援）

太地町では、高齢者の安全で安心な生活の質を確保することを目的に、自動運転車を活用した 移動サービスの実証・実装が計画されており、紀南河川国道事務所は技術的支援を行っています。

令和4年度に自動運転サービスを実装するため、令和4年8～9月の2ヵ月間に実証実験を行い、構想からわずか1年5ヵ月でサービスを開始しました。

自動運転車両は当初、町役場をスタートし、町営じゅんかんバスでは運行できないエリアを中心に、漁協スーパー・老人憩いの家・病院等を集会する1周3.2km 所要時間約45分のルートで、2台体制（1日18便）で運行していましたが、令和6年4月以降、自動運転のルートを拡大し2コースとなり、紀南河川国道事務所はその支援を行いました。

令和7年11月で3周年を迎え、累計利用者数が4万人（令和7年10月末時点）を突破しました。

現在も1,000人/月を超える方にご利用いただき、令和8年2月末時点の累計利用者数は、約4万6千人となっています。



自動運転の様子



自動運転車の利用状況



自動運転走行出発式（R4.7.29）



自動運転のルート

#### (4) GX推進の取り組み

各分野においてGX実現に向けた取組が推進されている中、インフラ分野においても、インフラ空間等を活用した再エネの導入促進、カーボンニュートラル推進などのGXの取組を実施中です。その取組の一環として、市田川排水機場では「紀州材を活用した転落防止柵」を設置しました。脱炭素化に資する建設材料の活用とともに、地産地消による経済的な地域貢献等に寄与しています。



#### 【GX (Green Transformation) とは】

GXとは、グリーントランスフォーメーションの略であり、クリーンなエネルギーを活用していくための「変革」やその実現に向けた活動のこと。なお、紀南河川国道事務所においては、工事現場において地場産業の活用(例:工事看板類)を行った場合に工事成績の加点評価などの取組も検討している。

#### (5) その他の取り組み

##### 1) すさみ串本道路 廃校利用プロジェクト

すさみ串本道路工事では多数の業者が集中しているため、賃貸物件の少ない当該地域では『宿舍や現場事務所の確保』が難航しているという声が出ていました。

一方で、少子化に伴う児童生徒数の減少等により『廃校施設』が発生しており、現存する廃校を宿舍や現場事務所へ活用(マッチング)することで、業者にとっても“元学校ならではの”メリット(教室毎に間仕切られた空間、静かな環境、コストダウン、地域に根差した活用)があります。



## 2) TEC-FORCE派遣（令和6年能登半島地震における支援）

緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）は、大規模な自然災害時に被害状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧などに取組み自治体を支援します。紀南河川国道事務所では、令和6年1月1日（月）に石川県にて発生した能登半島地震の支援として、1月3日～2月26日の間で、7班（計17名）の職員が石川県鹿島郡中能登町、珠洲市、輪島市にて活動を行いました。



第1班 1月4日～1月9日



中能登町での給水状況

第2班 1月8日～1月15日



珠洲市での被災状況調査

第4班 1月22日～1月29日



珠洲市での被災状況調査

第6班 2月12日～2月20日



輪島市での被災状況調査

第3班 1月15日～1月22日



珠洲市での被災状況調査

第5班 2月5日～2月12日



輪島市での被災状況調査

第7班 2月20日～2月26日



輪島市での被災状況調査

### 3) 道路ネットワーク全体のサービス向上の実現 (WISNET2050)

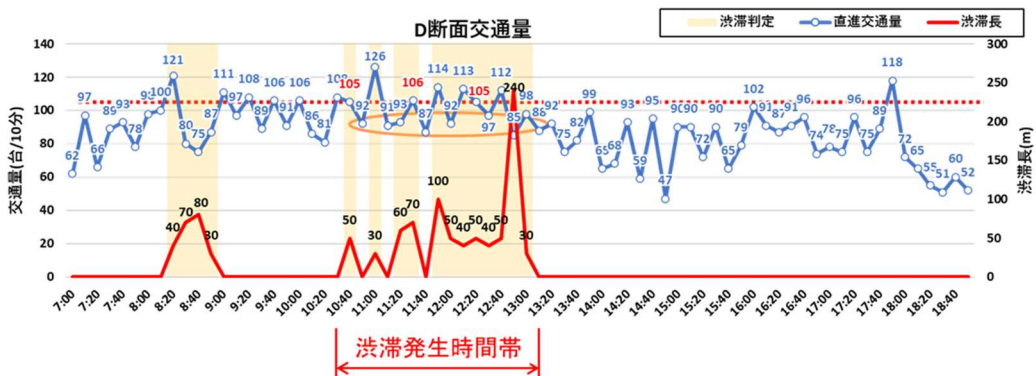
#### ワイズネット WISNET 2050

2050年、世界一、賢く・安全で・持続可能な基盤ネットワークシステムをWISNET (ワイズネット) ※と位置づけ、その実現のための政策展開により、新時代の課題解決と価値創造に貢献します。

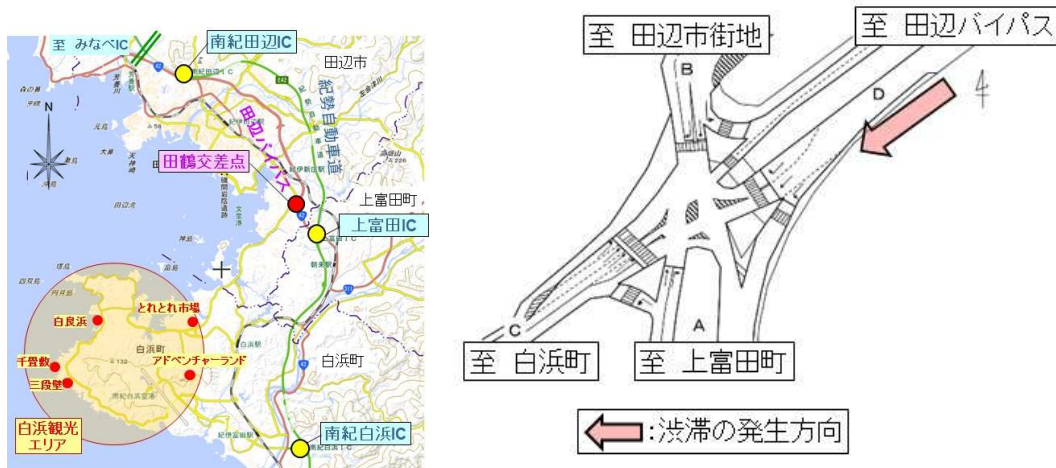
ワイズネット  
WISNET: World-class Infrastructure with 3S (Smart, Safe, Sustainable) Empowered NETWORK

#### 渋滞対策の検討・実施

日本有数の観光地である白浜エリアへのアクセス道路に位置し、特に観光繁忙期において渋滞の発生する田鶴交差点で渋滞要因を分析し、渋滞緩和・解消の対策を検討・実施します。



#### D方向 (直進) の交通量・渋滞長の変化





### 紀南河川国道事務所

〒646-0003

田辺市中万呂142

TEL 0739(22)4564(代)

<https://www.kkr.mlit.go.jp/kinan/>



### 田辺国道維持出張所

〒646-0024

田辺市学園24-17

TEL 0739(23)0190・0191



### 串本国道維持出張所

〒649-3510

東牟婁郡串本町サンゴ台1107-8

TEL 0735(62)0630



### 新宮河川国道維持出張所

〒647-0051

新宮市磐盾1-3

TEL 0735(22)8165



### 紀勢線出張所

〒649-2621

西牟婁郡すさみ町周参見2947

TEL 0739(85)2070

紀南河川国道  
事務所HP



紀南河川国道  
事務所X



国土交通省  
近畿地方整備局HP





国土交通省  
LINE通報アプリ  
#9910

友だち追加は  
二次元コードから



LINEで通報#9910

道路の異常を発見したら  
道路緊急ダイヤルへお知らせください。#9910 (無料) 24時間  
受付

※運転中の通話は道路交通法により禁止されています。安全な場所に停車してからのご連絡をお願いします。